

薬局の機能と薬剤師の職能を活かして進むべき将来像

岡崎 光洋

東京大学大学院薬学系研究科 医薬政策学講座 / 一般社団法人スマートヘルスケア協会

濱田篤郎先生が2017年に開催された同会学術集会において示された「トラベルファーマシー」構想では、旅行前に薬局やドラッグストアで渡航先の健康アドバイスやOTC薬の販売を行い、必要に応じてトラベルクリニックに紹介する流れを定着させる、また身近な薬局を拠点にすることで渡航医学に対する国民の意識向上を図ると示されており、本学会の薬剤師部会はその確立を目指して検討を重ねている。「トラベルファーマシー」の機能として、

- ① 渡航時の情報提供
- ② トラベルクリニックへの受診勧奨
- ③ 渡航時に必要な物品の販売
- ④ 海外持ち込み可能薬の確認
- ⑤ 英文薬剤携行証明書の作成

などが考えられている。

海外では薬局がトラベルクリニックの機能を果たしている現状もあるが、日本における法制度の規定から薬剤師による予防接種の実施など、一概に同様な機能を構築することは難しい現状がある。

現在薬局は現在6万軒を超え、医療の知識を持った専門スタッフがいて、地域の生活者が相談に立ち寄れる社会インフラに成長している。生活者の健康増進等を支援するサービスの提供など、社会の期待は大きい。今回は、薬局の機能として、薬剤師の職能として取り組む「トラベルファーマシー」の将来像について述べたい。

【略歴】

- 1992年 東京薬科大学薬学科 卒業
- 1997年 東京薬科大学大学院薬学専攻博士課程後期 修了
- 1997年 日本医科大学老人病研究所生化学部門 助手
- 1999年 東京薬科大学薬学部第二薬品化学教室 研究員
- 2002年 北海道薬科大学薬事管理学 講師
- 2005年 北海道薬科大学社会薬学分野 助教授
- 2008年 北海道薬科大学社会薬学系医薬情報解析学分野 准教授
- 2014年 北海道大学大学院保健科学研究院 客員研究員
- 2017年 東京大学大学院薬学系研究科医薬政策学講座 特任研究員 現在に至る